

ぱれっと

3月号

仙台市市民活動サポートセンター通信

2015 No.187

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

P 2-5

市民の力を支える

資金調達編

転期をむかえた助成金事情／社会を良くするお金の集めかた

P 6-7

会計のツボ

活動資金、ちゃんと把握していますか？

P 8

サポセンNEWS

- ・シニア専門相談
- ・『ちいさなマチノワストーリー』
誘導啓発事業実施レポート

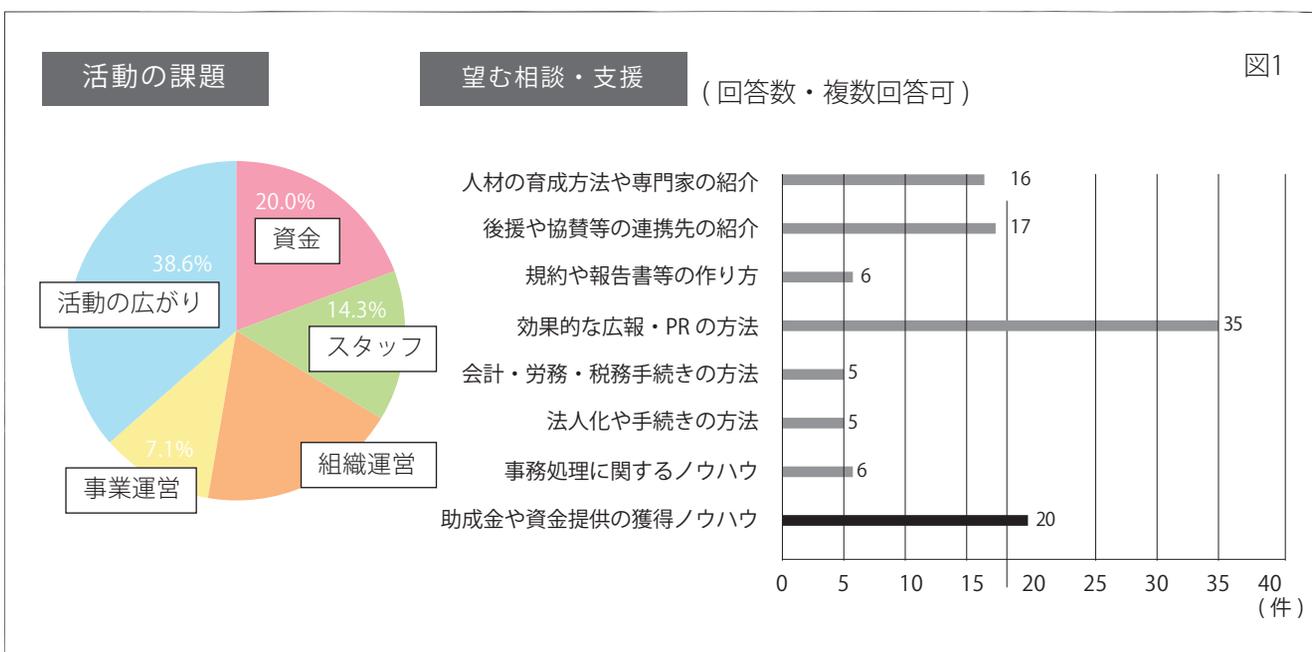




誰もが暮らしやすい持続可能なまちに向けて、地域や社会の課題を解決する人や組織を応援する情報をお伝えます。

資金調達編 利用団体アンケートより

平成25年度に市民活動サポートセンター(以下、サポセン)の事務用ブース・ロッカー・レターケース利用団体を対象に行った「団体アンケート」。その結果からは、市民活動団体の現状と、これから必要とされる支援が見えてきました(図1)。そこで、今回は「資金調達編」と題し、サポセンで開催した講座のポイントとファンドレイジングの基礎をお伝えます。



contents 1

転期をむかえた助成金事情

東日本大震災から4年、復興支援に向かっていた助成金事情が大きな転期をむかえています。震災特別枠を設けていた大手助成財団が特別枠の設定を解消・減少して、通常の一般枠の中でする動きもあり、2015年頃を転期に、縮小傾向が顕著になりそうです。

震災からの復興・再生の活動は今後10年、20年という長期間を見据えて活動しなければなりません。復興に取り組む団体にとっては、組織基盤を強くして今後の中長期計画を考える時期に、活動資金の獲得が難しい局面をむかえるという状況です。

そこで、普段なかなか聞くことのできない、助成金の出し手側の話を聞き、良い助成金申請書と報告書作成のコツを学ぶ、「市民活動団体・NPO法人のための助成金申請講座」を開催しました。



公益財団法人
地域創造基金さなぶり

専務理事 事務局長

鈴木祐司さんに聞く!

助成金申請の極意とは?

市民活動団体・NPO法人のための

助成金申請講座

2014年11月8日(土)開催

テーマごとに参加者同士が情報交換しながら、講師に聞きたいことを発表。質問の内容に対して講師が回答する形式で行いました。参加者のみなさんも熱心に発表、まさに「聞きたいことが聞ける」講座となりました。

なぜあなたにこの助成金を出すのか納得させる

助成を行う側は、提出された申請書を読む際に、「この団体・事業に助成金を出す理由や意味合い」を考えながら見るそうです。

助成側には助成を行う目的があり、その目的に合った使い方をしてくれそうな団体に助成金という形で支援します。また、その助成金を使うことによって、申請団体がステップアップしたり、地域に良い変化が起きてほしいと思っています。したがって、目的通りの活動を行うかどうか、その実行力があるかどうか、助成後の次なるステップアップにつながるかなどを申請書から読み取っているのです。

限られた文字数でしっかり伝える

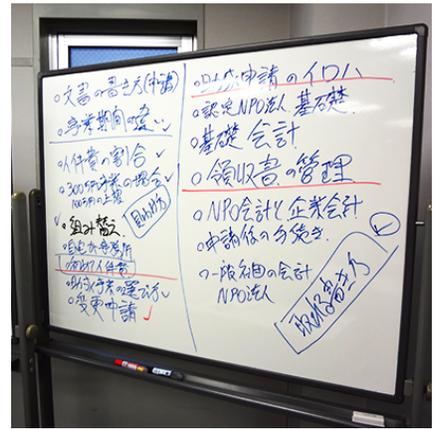
審査員は定められた書式内に記載された文章から、込められた思いを読み取ろうとしっかり見えています。小さな記入欄にすべての思いを込めて書き切るのは大変な作業だと思いますが、伝えるべきポイントを絞って記入したいものです。その際忘れてはいけないことは、「具体的に何をやるのか」について明確に書くことです。活動への思いや団体設立の経緯を伝えるのに熱くなりすぎて、事業の内容がわからない申請書では審査のしようがありませんね。「誰のために(対象)」「何のために(目的)」実施するのかについても、はっきり記載しましょう。

こんなポイントで納得！

アンケートから、講座満足度は90%。参加団体が抱える課題によって納得のポイントや、気づきはそれぞれでした。例えば…

- ・助成金は、自らインターネットなどで積極的に情報を収集しなければならない。
- ・申請書には実績や実施する事業内容についてしっかり書きたい。
- ・今後は、助成金で団体・地域がどう変化するのか(したのか)ということを考えて、申請や報告を行いたい。
- ・この事業は「当団体でなければならない」ということをアピールしていきたい。
- ・自団体を客観視することができた。

講座での学びを、今後の助成金申請に役立てていただきたいですね。



▲参加者のみなさんから出された質問

助成金探しのお役立ちサイト

CANPAN
<http://fields.canpan.info/>
 日本財団およびNPO法人CANPANセンターによる、市民、NPO、企業などの活動を支援するソーシャルプロジェクト。ホームページ上で公益活動団体が活用できる助成制度のデータベースを公開。検索機能が充実。

みやぎ NPO 情報ネット
<http://www.miyagi-npo.gr.jp/>
 宮城県と認定NPO法人杜の伝言板ゆるるが運営する宮城県中心のNPOに関する情報サイト。助成金情報を見やすく掲載。

NPOWEB
<http://www.npoweb.jp/>
 NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会が運営するNPO・市民活動に関するニュース&情報サイト。助成金情報が締切日順・掲載日順で見やすい。

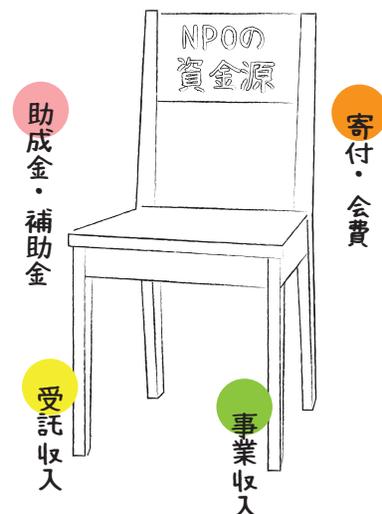
**公益財団法人
地域創造基金さなぶり**

理事長：大滝精一
 〒980-0804 仙台市青葉区大町
 1-2-23 桜大町ビル 303
 TEL：022-748-7283
 FAX：022-748-7284
<http://www.sanaburifund.org/>

社会を良くするお金の集めかた

NPOは、社会や地域の課題の解決を目指している非営利の組織です。活動のためには資金が必要であり、立上げ時にはメンバーで資金を出し合いながら運営する場合もあるでしょう。しかし、継続して運営するためには、活動資金を調達しなければなりません。非営利とは、活動でお金を取ってはいけないという意味ではありません。本を出版して販売するなどサービスの対価をいただいてもいいのです。利益が出たら、関係者などに分配せず次の活動資金に使うことになります。

NPOの資金源は、椅子の4本足に例えられます。主な4種類の資金源を意識した財源管理をしましょう。4本全てが整っていないといけないということではなく、1本なくても座れるかもしれませんし、得意な財源がしっかりしていれば転ばないかもしれません。それぞれの団体の得意分野を活かした財源管理をすればいいのです。

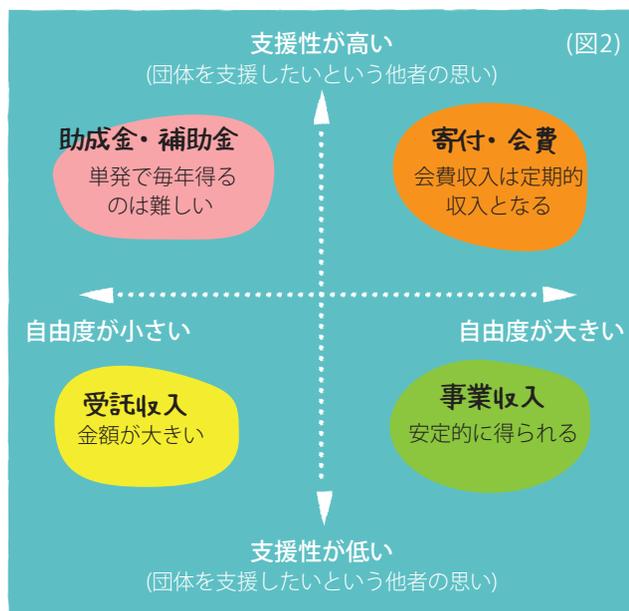


NPOの資金源 (自由度と支援性の再確認)

それぞれの資金源の違いは、支援性と使い道の自由度です。中でも、団体を応援したいという他者の思いがこもっていて、自由に使える寄付や会費は大事な資金源です。(図2)

助成金が途切れたら活動も停止とならないために、助成金で活動をステップアップさせ、事業収入や会費収入が増えるように組織の強化を行いましょ。助成金を得られたことで対外的な信用度が上がり、受託収入や寄付金につながる…というように、意識的に資金調達と組織の基盤強化に関連性を持たせることが重要です。

【NPOの資金源 性格を比較してみると…】



会費や寄付をお願いするポイント

○共感を得る

自分が寄付をする側だったら、どんなときに寄付をしたくなりますか？「わかるわかる」「頑張ってほしいな」といった「共感」ができるかどうかが決手になります。共感していただくためには活動や団体を「わかって」いただく必要があります。「わかりやすく」伝えることがポイントですね！

○使い道が明確で明らかにされている

寄付金や会費が何に使われるのかわからなければ、大事なお金を託す気持ちにはなりませんね。

「このお金が、こんな素晴らしいことに使われるんだ！」と思えて、会計報告もしっかり開示されていれば安心することができます。

○お礼の気持ちを届ける

寄付や会費をいただいたら、日を置かずお礼状を送りましょう。活動の報告が届くのもうれしいものです。次の寄付につなげるためにも、手紙やメールなどでこまめに連絡をとりましょう。寄付をしてくれた人が団体の宣伝をしてくれることもあります。ぜひお友達にも広めていただくお願いをしましょう。

活動力強化講座 市民活動団体・NPO法人のための 広報ツールをつくろう！ 2015年1月17日(土)開催

イベントや講座のチラシ作成と会員や寄付を募集するための団体パンフレット作成の基本を学ぶミニ講座を開催しました。

イベントチラシ編

上手なチラシ作成は、情報の整理から

チラシ作成にあたり文章やデザインなど技術的なことの前に、伝えたい情報がきちんと整理されているかどうか見てみましょう。(1)自分たちは一体何者なのか、基本情報をもう一度整理してみましょう。(2)あなたの団体はどんな風に見られたいですか？現実にはどのように見られているのかも考えて、団体のイメージを作りましょう。(3)伝えたい相手＝ターゲットを具体的に思い描き、広報の目的を明確にしましょう。

次にデザインです。読み手の立場になって読みやすく情報をレイアウトすることが大切です。タイトル、日時、場所など、必要な情報に優先順位をつけて整理するとよいでしょう。また、一番言いたいことは、大きな文字で表わし、紙面上で目につきやすい場所に配置するなど、メリハリが重要です。(図3)

団体パンフレット編 (寄付募集)

団体の履歴書を作ってみよう

寄付や会員を集めるためにパンフレットがあると便利です。作成するには、自分たちの団体や活動を伝えるための情報が必要です。まずは、団体の履歴書作りで、ポイントを押さえます。

(1)団体の目的(ミッション)を伝える。団体が、何のために、誰のために、何を行うのかということは、一番大事な柱です。団体内でよく話し合っ、短いフレーズにまとめておきましょう。(2)団体の「ものがたり」を伝える。設立に至った経緯や想いは共感につながります。団体の雰囲気や性格を伝える言葉にもなります。400字位にまとめてみましょう。(3)次のアクションを促す。パンフレットを手にした方に何をして欲しいのか導く工夫をしましょう。例えば、「寄付してください」「会員になってください」と書くことで、次のアクションにつながりやすくなります。



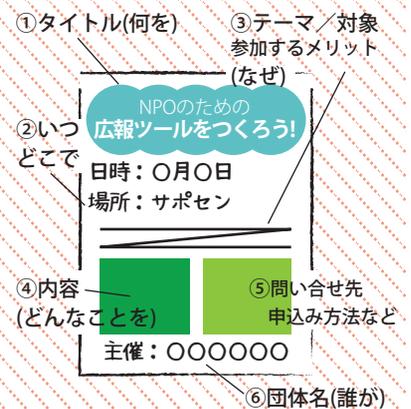
▲自身の団体情報を振り返るみなさん

チラシのラフスケッチを描こう!

情報の優先順位を

(図3)

①～⑥とした場合の例



履歴書にはコチラも忘れずに!

団体の基本情報を 正しく押さえましょう!

団体の正式名称・代表者名・主たる住所・電話、ファックス番号・メールアドレス・ホームページのURL・設立年月日(法人格取得年月日)・主な活動分野・活動地域・前年度の支出総額・設立の経緯・主な活動実績・現在の事業概要など

信頼を得るためのノウハウは、資金調達のノウハウ

資金調達の基礎は、相手(支援者)が求めていることをしっかり読み取ることと、自分たちの活動を相手にしっかり伝えることです。自分たちの団体について整理し、相手に伝えるためのノウハウは、資金調達の要です。なかなか資金が集まらずお困りの方は、今回ご紹介したポイントを考えてみてください。サポセンでは、随時ご相談に応じます。お気軽にお越しください。(太田貴 鈴木美紀 葛西淳子)

会計の



活動資金、ちゃんと把握していますか？

会計事務は、NPO法人にとって大切な業務のひとつ。多くの市民から信頼を得るためにも、適切な会計処理は重要です。2012年4月1日の改正NPO法の施行により、NPO法人が毎事業年度終了後3ヶ月以内に作成しなければならない書類のうち、「収支計算書」が「活動計算書」に変更になりました。なぜ、活動計算書が必要なのか。サポセンスタッフ橋本がお伝えします。

情報公開の重要性

活動を維持する上で、団体からよく聞く困りごとは、新規会員が増えないこと。仙台市所管のNPO法人のうち、収入が100万円未満の団体では、会費が収入の4割を占め、お金の面でも新規会員獲得は必須。では、新規会員のなり手は、本当にいないのでしょうか？

仙台市教育委員会の2012年11月の調査では、市民の8割が「社会や地域のために何かしたい」と考えていますが、行動しているのは6割。関心があるにも関わらず、まだアクションを起こしていない人は4割もいます。

サポセンには頻繁に、「何かしたい」と、NPOに関心を寄せる市民の方や、協働の相手を探す企業の方が来館されます。そんな方々にとって、「何のために、どんな活動をしている団体なのか」という情報に加え、会計報告は、信頼できる団体かを見るための重要な情報の1つです。しかし、「公開情報が少ない・分かりにくい」という声をよく耳にします。

使えるお金を把握しよう

活動の継続のためには、使えるお金(=正味財産)の把握が不可欠です。これを表すのが活動計算書の役割です。

従来の収支計算書では、「収入-支出」で「使えるお金」を計算するので、会計経験が少なくても取り組める方法でした。しかし、NPO法人の規模拡大と共に、収支計算書では、限られた条件でしか、正味財産が把握できないという課題が顕在化してきました。

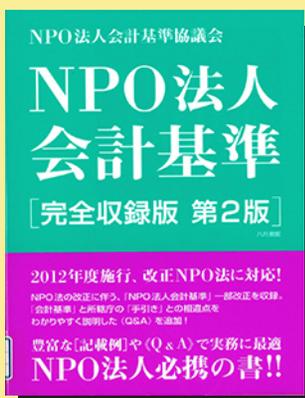
その条件とは、「資産が現金と預金のみ、負債がゼロ」。現在、仙台市所管のNPO法人で、この条件に該当するのは、全体の1/3だけ。残り2/3の団体では、現金・預金以外の資産が有り、借金がないとしても、前受金等の形で負債が計上されているので、収支計算書では正味財産を正しく表すことができないのです。

この課題の解決策として生まれたのが活動計算書です。

NPO法人会計基準 完全収録版 第2版

NPO法人会計基準協議会編

お役立ち本



NPO法人会計基準が、懇切丁寧に書かれている本です。内容は活動計算書が生まれた理由と経緯、活動計算書の基本的な考え方と構造、そして実務担当者向けの記載例とQ&A。記載例は、NPO法人の財務内容別に4つのパターンに分けて、貸借対照表と活動計算書の記入事例と説明があるので、読者の財務状況に応じた報告書作りに、すぐ活用できます。

さらにNPO会計の基本的な考え方から実務レベルの対処法まで、多彩なQ&Aで記載例を補強しています。苦勞して会計を独学しているNPO法人の会計担当者の方には、心強いサポーターです。

編集/NPO法人会計基準協議会 出版社/八月書館

活動計算書 実は簡単！ひとりで悩まないでください！

2015年1月の時点で仙台市所管のNPO法人の多くが、活動計算書を採用しています。しかし、実際に公開された活動計算書を見ると、精度としては「もうひと頑張り」のところも多いようです。

1. 活動計算書の概要

2012年4月1日の改正NPO法の施行により、収支計算書が活動計算書に変更されました。活動計算書は、一般企業が使う損益計算書をNPO用にアレンジしたものです。

損益計算書では、計算の結果は「利益」ですが、活動計算書では「活動に使える自分たちのお金」という意味で当期正味財産増減額に変えました。この点を押さえれば、団体について知ろうとしている市民の方にも分かりやすい方式です。

収支計算書から活動計算書への主な改善点

- ① 「収入－支出」ではなく、「収益－費用」で計算します。正味財産増減額が資産や負債の内容に関係なく、計算できるようになりました。
- ② 活動計算書の作成過程で、事業ごとの費用明細を作成します。この明細はNPO法人会計基準の規定通り作れば事業ごとの費用分析ができます。分析はコスト改善の第一歩。
- ③ 注記を書きます。会計方針・固定資産の増減・借入金の増減等々、数字では分りにくい事項を、注記で詳しく説明することにしたのです。

2. みんなで情報公開と精度アップ

活動計算書を採用している団体みなさんにも、確認していただきたいのが、注記の記載です。注記は、活動計算書を分かりやすく示す柱です。ぜひ作成・公開し、内容を充実させましょう。

そして、NPO法人会計基準の規定を守って精度をアップさせましょう。例えば、提出された活動計算書のうち、「事業費・管理費の中身が、規定通り区分されていないもの」、「貸借対照表と活動計算書の正味財産合計が一致していないもの」、「表題を活動計算書にただけで、中味は収支計算書のままのもの」なども見受けられます。これでは、市民の信頼を得るのも、なかなか難しいかもしれません。

サポセンスタッフがお手伝いしますので、みんなで公開情報の精度をアップさせましょう。



3. 活動計算書を勉強しませんか

まずは、みなさんの活動計算書を、NPO法人会計基準協議会のチェックリストで診断することをお勧めします。リストはインターネットで「NPO法人会計基準」と検索してください。その他、活動計算書への移行方法についても、ぜひサポセンまでご相談ください。

ミニ情報：会計サポーターをご存知ですか？

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるが、NPOを支援する事業のひとつとして、会計サポーターの養成と派遣事業を行っています。会計サポーターとは、企業会計・経理経験を持ち、NPO会計基準を学んだ有償ボランティアです。

会計事務は、NPOにとって最も大切な業務のひとつ。団体がミッションに注力できるようにするためにはどうすればいいか一緒に考えながら、団体の状況に応じて活動計算書、注記、貸借対照表作成などのお手伝いをしています。詳しくは、右記までお問い合わせください。

詳しくは…

認定NPO法人
杜の伝言板ゆるる

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡3-11-6
コーポラス島田B6
TEL：022-791-9323
FAX：022-791-9327
Mail：npo@yururu.com
http://www.yururu.com/

開催します!

シニア専門相談

「地域・社会の課題解決などのソーシャル
ビジネスやNPOの資金に関する個別相談会」

サポセンNEWS

発行しました!

ちいさな
マチノワストーリー

誘導啓発事業実施レポート

専門相談員：日本政策金融公庫国民生活事業
東北広域営業推進室 鎌田彰 さん

日時：2015年3月21日(土)

午前10時～午後4時の間で1名あたり50分位

場所：仙台市市民活動サポートセンター3階

定員：5名(個別相談、グループも可/先着順)

※3月6日(金)午前9時から申込み開始

参加費：無料

対象：おおむね55歳以上の方で、

- 起業・創業に必要なことや、情報を知りたい方
- 起業の心構え・注意点や事業内容の決め方など知りたい方
- NPOを運営する中で、資金面に課題がある方など

お申込み：仙台市シニア活動支援センター

TEL：022-217-3983 FAX：022-217-3984



サポセンで
Get!

「何か始めたい!」そんなあなたの思いを応援する3つのプロジェクトが、1冊の本になりました!

サポセンでは2014年度、「ハジマル、フクラムプロジェクト」、「ちょっと。ボランティア」、「市民ライター講座」の3つのプロジェクトを行ってきました。自分たちの住むまちをもっと暮らしやすくしようと、農業、街のおそうじ、子どもの遊び場づくりや、食、防災をテーマに活動する方々との関わりから得た、たくさんのヒントを、ぜひあなたの一歩にお役立てください。詳しくはサポセンまで。

つながる つなげる サポセン

▶ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得・団体運営、組織運営、協働
- ・復興支援活動・シニア活動、セカンドライフ相談など
まずは、お電話ください。

開館時間 平日：午前9時～午後10時

日祝：午前9時～午後6時

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)及び、年始(12/29～1/3)



"Follow Me!"



編集後記

3月になり、3.11から4年が経つことを意識しない日はありません。今年仙台では国連防災世界会議が開催されます。私たち市民が参加できるイベントもありますよ。例えば、「市民協働と防災」テーマ館となるサポセンで開催されるものは、すべて市民向けのイベントです。3.11を経験した私たちだからこそ、伝えられることがあるはず。足を運んでみませんか?

▷ ぱれっと読者アンケートにご協力をお願いします!



サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で左記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

Twitter <https://twitter.com/sensapo>

発行日：2015年3月1日

編集：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：菊地竜生 太田貴 菅野祥子 葛西淳子 松村翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]